中央大学国際経営学部　企業訪問報告書

調　査　テ　ー　マ	ボッシュから見えてくるものとは
調　　査　　日	2021 年 10 月 29 日（金）
調　　査　　先	ボッシュ株式会社
担当教員身分・氏名	教授　山田恭稔
授業科目/学部企画名	訪問調査（企業訪問）
参加学生数（学年）	6名（1年生）/6名（2年生）
調査趣旨・目的	事前学習を通じてBOSCHの基本情報についてインプットを行ったのち、企業訪問を行い、社員の方から事業概要や組織形態を教えていただき、その後具体的な事業を通じてBOSCHの本質の部分がどのように事業へと反映されているのかをうかがった。最後には十分な質疑応答の時間が設けられ、求められる人材像や就職活動についての意見が交わされた。企業訪問の目的としては、将来の方向性が決まっている人、まだ決まっていない人がいずれも自分のキャリアについて考えるきっかけを得るということが挙げられる。
調　査　結　果	今回の企業訪問で事前学習を通じてグループワークによる基本情報の把握、および訪問先で守るべきマナーを全体で共有したのち、渋谷にあるボッシュの本社へ訪問させていただいた。到着後はボッシュ渋谷本社事務所長を務める下山田氏と、FUSION プロジェクトで下山田氏と活動を共にする大村氏が講師として温かく参加者一行を迎えてくださった。大村氏が主に進行を行い、下山田氏が講演内容に関する質問に答えてくださる形で先の、調査趣旨・目的、で述べた流れを踏んだ講演が行われた。 ボッシュはドイツに本社を置き、世界の様々な国と地域でテクノロジーを駆使したサービスを提供する多国籍企業である。B2B をメインに、日本では主に自動車部品の販売を行っており、じつに売り上げの 9 割を占めているが、アフターマーケット・E-Bike・電気工具などの販売も行っている。組織としては非上場の形態をとっており、これによって M&A を回避できるというメリットを持つが、財政管理がとてもシビアであるため GAFA のように潤沢な資金を用いて“やってから確かめる”ということが難しく、石橋を叩いて渡るような経営が求められる。質問によって分かったこととして、ボッシュは社員の働きやすさに配慮した工夫を行っており、コロナ感染者が増え始めた 2020 年の 2 月の時点で即座に完全リモート業務を可能にし、卓球台も利用できるレクリエーションルームなどの用意もされていた。 今回紹介していただいた事業とはFUSION Projectの一環として行うボッシュフォーラム建設についてである。FUSION Project とはボッシュの持つ様々な事業領域を統合する動きのことでボッシュフォーラムとはボッシュのオフィスと区民文化

センターの機能を持つ複合施設であり、建設後の街の整合性まで配慮しながら建設が進められている。主にB2Bを行っているボッシュはお客さんとの直接的なタッチポイントを持たない、この施設はそんなボッシュという企業とお客さんが直接的に関わる機会を創出したいという願いも込められているのだと下山田氏は語った。現状として、このような複合商業施設は企業の利益性を重視した仕組みに則って作られているが、ボッシュが目指すのは居心地がよく、地域の方に広く愛されるような施設を提供することである。ボッシュの“信用を失うよりお金を失う方がよい”という考え方からも誠実な本質の部分が事業へと反映されていることが分かる。

最後にとられた質疑応答の際には、会社を選ぶ際には会社の今はもちろん5年後や10年後を見据えること、求められる人材というのは世界で起こっていることを把握し、そこからニーズを見つけることができる人間であるということも教えていただいた。

下山田氏と大村氏のお二人が全体を通じて双方向的なコミュニケーションをとれるよう配慮してくださったので、積極的な意見交換をすることができ、楽しいかつ実りのある時間となった。

用意してくださった cafe 1886 at Bosch のコーヒーを片手に講演を聴いている様子。

講演の最後は中央のCポーズでかしゃり。

歴代のボッシュ製品がみられるレクリエーションルームの様子。